

ありがたい蕎麦

節分というと、新参者の「恵方巻き」が騒がれています。私が20代を過ごした京都市左京区にある吉田神社（京都大学の隣）の節分祭では、多くの出店の中に「河道屋のれん会」という組合が大きなテントを張り、参拝者に昭和27年から毎年「年越し蕎麦」を提供しています。



1杯600円で、刻み海苔とワサビが添えられた温かいシンプルな蕎麦で、お参りを済ませるとこれをいただきます。寒中で冷えた体にはたまりません。そう～そう、熱々のお神酒も…

では、なぜ2月3日の節分に「年越し蕎麦」なのでしょう。諸説あるようですが。

私の同級生で家業が代々神官を勤めていて、現在は彼も継いでいます。体力維持と一緒にウォーキングをします。すれちがったご近所の御婦人から、「あら、お坊さまと神主さまで最強のお二人ね」などと冷やかされます。でも特に神職は強くなければなりません。神様は佛様より「わがまま」なところが多々お有り、寺方よりも辛抱強くお世話させていただかなければなりません。私の同級生は別として、御精進

の神主さんは午前1時には起床し、身を清め御供え物を奉げます。その2時、つまり「丑三つ時」から御祈祷です。もし寝過ぎすことでもあれば、布団ごと部屋の壁まで投げ飛ばされます。

神の世界で元日となる2月4日の丑三つ時だけはいつもと違うようです。社殿の方から大勢の話声がガヤガヤと聞こえてきます。どうやら会議をしているようです。なんと！^{やおよろず}八百万の神々が社殿に御降臨され、各氏子の新しい1年分の「厄」を決めておられるのです。

氏子帳をめくると「友引町在住 俊徳丸」とあります。罪深い順です。どうやらこの1年間は寿命があるようです。「どれどれ、何、あいかわらず町内会通信とやらの締切りに遅れて、昨年もいいかげんなことばかり書いておるようだな。昨年の3倍に増やしておくかな」と話し合いで決定され、1年分の厄が記載されます。それでも「厄」はありがたく頂戴し、来年の節分の間までに一つ一つ解決し成し遂げていくのです。特にご自身が苦手分野としていることは後回しにしがちですが、そういったものこそ早め早めに成し遂げると達成感と共にご自身のパワー(勢い)となります。これが「運勢」というものです。私のように、締切り間際まで手を付けない人は運勢が上がりません。そのための「厄」ですから、払ってはいけません。

頂いた「厄」は精進して12月末までにお返しし、1月はゆったりと過ごし、節分にそのご報告と感謝のお参りができ、おいしい「年越し蕎麦」を食べるのが理想です。

(御存じ)